

## 防災施設の機能維持のための管理内容の基準化について(論点メモ) (河川管理内容等の基準化)

【目的・意義】 (管理＝ここでは機能維持としての狭義もの)

- ・計画規模を超える洪水等の発生により、破堤等が起こり甚大な被害が発生し、管理の重要性が再認識
- ・社会変化の中で地域の防災力の低下や水防体制の脆弱化
- ・中小洪水の経験の減少、管理ストックの増、資金不足等の中で、管理の充実が課題

・これまでは、管理内容について特段の基準を定めず個々個別の河川に必要な管理を考え行われてきたが、最低限必要な管理は何かが不明確なため、結果として不足や無駄があった可能性がある

・河川の区間レベルだけでなく、個々の施設の部材レベルでも同様

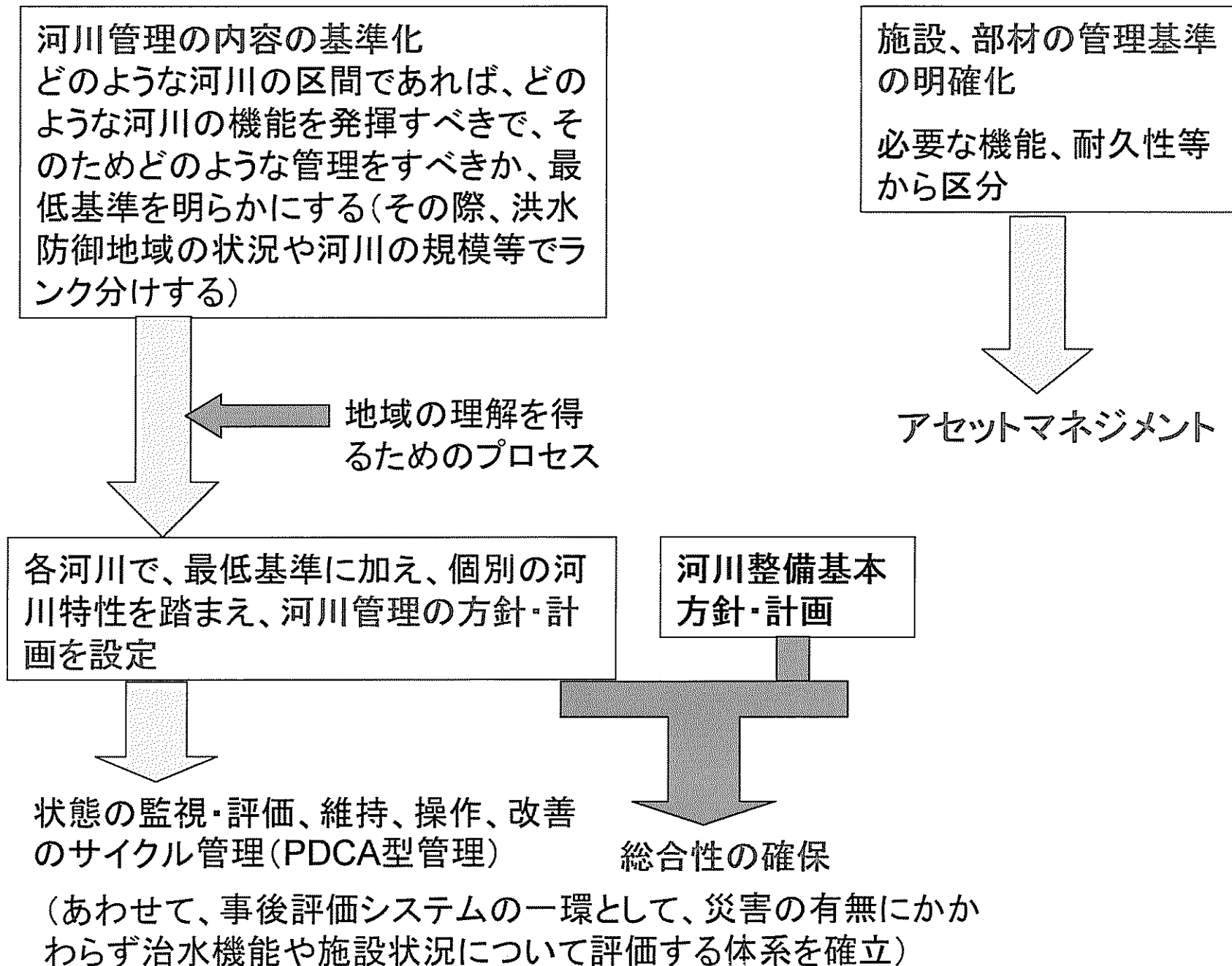
・管理内容のあるべき姿を最低基準等で明確化し、着実に効率的な管理を目指す

・さらに、変化する河川の状況を監視し、その結果に基づき施設の機能を適切に維持し、必要な改善をすることで、一連の体型を整えることにより、従前より管理水準を向上させる

区間; 状態監視・評価、維持、操作、改善等の内容・頻度の明確化

施設・部材等; 壊れてはいけないものと、少々壊れても復旧すればよいものの区分化

# 具体策案



# 土地利用状況等を踏まえた治水対策

## 1．問題認識

### 1 - 1 これまでの治水対策の進め方

治水対策の実施にあたって、これまでは水系単位で全国的なバランスをとりながら氾濫域の重要度に応じて安全度を設定した上で、土地利用状況にかかわらず氾濫域内で同一の安全度を確保するべく、上下流バランス等に配慮しながら連続堤方式により下流から順次整備を進めてきている。

### 1 - 2 効果的・効率的な整備の必要性

集中豪雨の頻発や施設規模を超える洪水の多発を踏まえ、また投資余力が限られる中で水系全体の安全度を確実にかつ早急に向上させていくためには、人口減や開発圧力の減少等といった氾濫域内の土地利用状況を踏まえ、守るべき対象を明確にして、従来の整備手法や考え方にこだわらず、効果的・効率的な整備を進めることが必要である。

### 1 - 3 現況施設を超過する洪水についての対策

集中豪雨の頻発等により、特に中小河川では現況の施設能力を超える洪水の発生が今後とも予想されることから、超過洪水が発生し破堤等が生じた場合でも水系全体として壊滅的な被害とならないよう対策を講ずることが必要である。

## 2．目指すべき方向

### 2 - 1 土地利用状況に応じて必要な安全度の確保

治水対策の効果を確実にかつ早期に発現できるよう、都市部、地方部にかかわらず効果的・効率的な治水対策を進めるため、氾濫域内の土地利用状況に応じて必要な治水安全度を確保した上で、従来からの連続堤方式に

こだわらず、輪中堤、宅地等のかさ上げ・移転など地域の土地利用や地域社会の意向にも適合した手法を用いた整備を実施する。

## 2 - 2 効果的な治水の観点からの土地利用方策の誘導

従前から遊水機能を有し、水系全体の治水安全度の確保の観点からその機能が今後とも維持されることが望ましい区域や治水安全度が元来低く、土地利用にあたって何らかの安全確保対策が必要となる区域等においては、土地利用状況を踏まえた治水対策の実施や治水対策方針を反映した土地利用が可能となるよう、氾濫域内の土地利用を治水上望ましい方向に誘導することも考えられる。地域の治水安全度を向上させるための土地利用との計画調整方策及びそれを地域全体で合意形成を図るための的確な仕組みの構築について検討を進める必要がある。

## 2 - 3 施設能力を超過する洪水時にも被害を小さくするための施設の設計や計画の検討

氾濫域内を同一の安全度で防御する連続堤の整備による治水方式では、施設能力を超えた洪水が発生した場合に、市街地部を含む全ての区間で破堤等が生ずる可能性があり、被災ポテンシャルが却って高くなる。

施設能力を超過する洪水が発生した場合でも被害が小さくなるよう、市街地ではなるべく破堤しにくいような施設設計や治水計画を検討すべきである。特に中小河川では、洪水位が急激に上昇する一方、高水位が短時間しか継続しない特性を有することを考慮して、一時的な水位上昇により破堤等が生じないような対策を検討する。